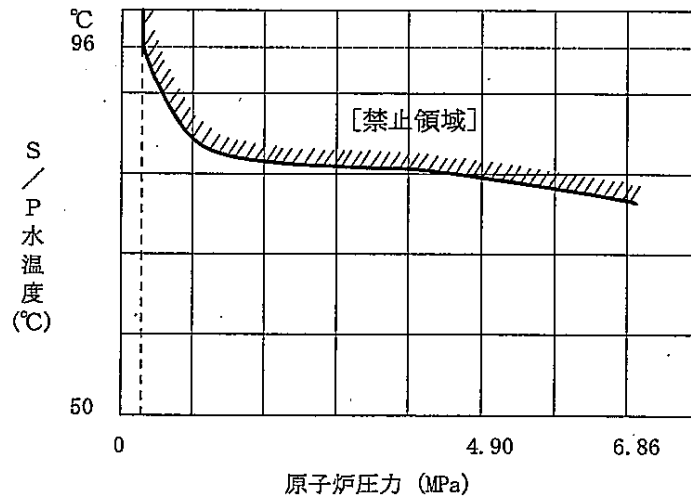


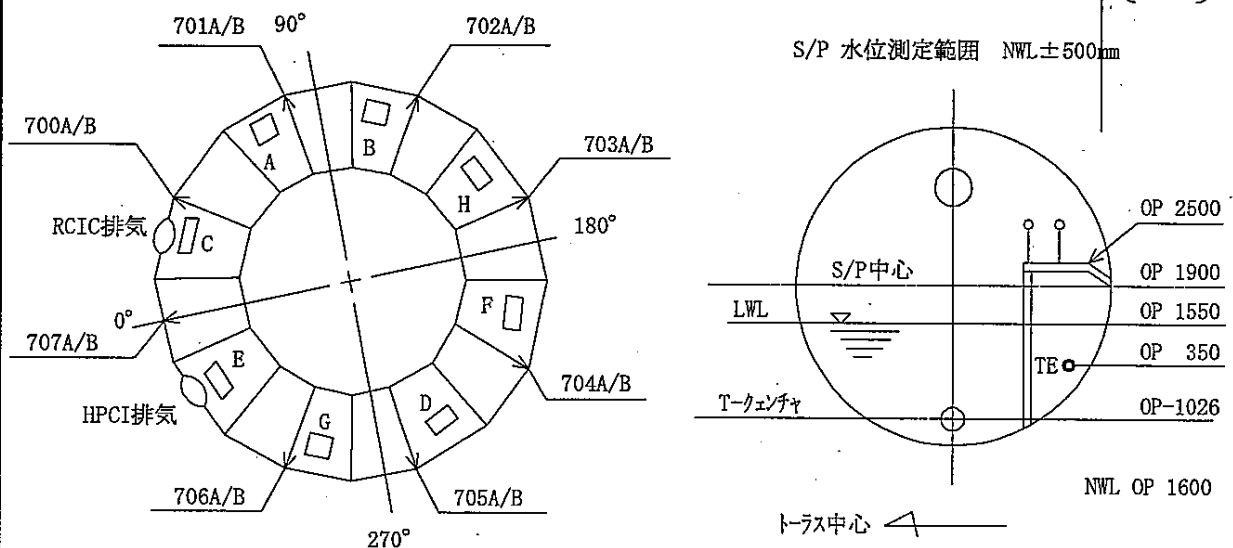
ステップ	運 転 操 作	参 考 事 項	備 考
CD-2.3	主復水器使用不可の場合、S/P 熱容量制限を監視しながら以下のシステムを使用し減圧する。 また、冷却率は [55°C/h (最大 RPV 冷却率)] 以下で行うこと。 (補5)	(補5) S/P 水温 …通常運転時 32°C以下 …原子炉スクラム制限 49°C	解説 A-4 保安規定 第45条 解説 B-11
CD-2.3.1	S/P 熱容量制限に十分な余裕がある場合。 1. SRV (補助的に CD-2.3.2 を用いてもよい) (1) SRV 「手動開」 #11 (2) 原子炉圧力及び S/P 水温度確認	注意事項 #11 SRV による減圧を行う場合、可能な限り S/P の温度上昇を均一にする為なるべく離れた SRV を順次開放すること。 SRV の開弁は、冷却率を確認し間欠で行うこと。	

図C-2 S/P熱容量制限曲線



制限図
(図C-2)

図1 各SRV吹出し位置及び TE 700A/B~707A/B設置場所



参考資料
(参考 4)
図 1

3-4-7 (CD)